

弥生時代の大型土坑 -東海地域を中心として-

● 荫山誠一

弥生時代の尾張地域の遺跡においてよくみられる大型土坑について、形態や埋土の特徴から、その機能の主体を生活道具類の廃棄と考え、遺跡中では居住域に多く、墓域に少ないことを明らかにした。さらに阿弥陀寺遺跡の事例から大型土坑が竪穴住居の周囲10m程の範囲に掘られ、被熱痕跡がある埋土の土坑が竪穴住居群の間の空閑地に多いことを推定した。また東海地域の弥生時代～古墳時代前期前半にかけての遺跡にみられる大型土坑についても分析し、尾張地域における占地と同様な特徴を確認した。東海地域では沖積微高地に立地する遺跡において多くの大型土坑が掘られ、弥生時代後期～古墳時代前期初頭の遺跡に少ない傾向を指摘した。

1 はじめに

尾張地域における弥生時代の集落遺跡を発掘調査すると、竪穴住居、掘立柱建物、井戸、方形集溝墓、環濠、土坑、溝など様々な形態をした遺構が検出できる。筆者は、近年当センターにおける発掘調査に携わる中で、比較的土器など遺物が多く出土し、阿弥陀寺遺跡の報告などにおいて焼土や炭、灰層を堆積する土坑として分析された大型土坑について、当地域の弥生時代集落を考える資料にならないだろうかという認識を抱いていた。

今回分析するような大型土坑は、1967年に石野博信氏により弥生時代における貯蔵のための施設としてとりあげられた「貯蔵施設の三形態」である「屋内小土坑」、「屋外土坑」、「高床倉庫」の「屋外土坑」の一部に当たり、弥生時代の貯蔵施設について「中期以降の三者の実態を要約すれば、住居に接していくつかの屋外土坑が付設され、住居内には小土坑が、離れて集落の一画には高床倉庫が建てられるという形態をとる」としてまとめられた「屋外土坑」の恐らく大部分に当たるものと思われる。石野氏が当時全国で蓄積された弥生時代集落の調査事例を網羅して分析された労作であり、各地の屋外土坑についてその機能等にも追求された研究で

ある（石野 1967）。今回の分析は貯蔵施設としての大型土坑ではないが、大型土坑の占地の結論は石野氏の屋外土坑の実態とされたものと同じものを想定しているものと考えられる。同様に弥生時代前半期の北部九州地域を中心に分布する袋状竪穴についても、弥生時代の貯蔵施設として武末純一氏が竪穴住居との関係から高床倉庫と推定される掘立柱建物との集落内における位置関係から分析を試みられている（武末 1991）。また弥生時代の北部九州地域に展開する墓域内にある「墓域縁土坑」について、多くの土器類が出土する類例から墓前における祭祀に関する分析がある（川上 1995）。

以上から考えると弥生時代の遺跡において、様々な形態をとり、広く展開する遺構として認識できる可能性が高いように思われる。そのため弥生時代における遺跡の分析・研究の中では、集落の広がりや変遷を考えるための材料にはなってきたが、個別の研究素材としてはあまりとりあげられてこなかったものといえるだろう。

よって本論では、弥生時代の東海地域における集落遺跡において、大型土坑がどのように展開するのか、立地との関係、時期的変遷、遺跡内における占地の特徴について検討したい。尚、本論では土坑の平面における長径が1.0m以上のものを主体に分析し、また長径0.5m以

上1.0m未満のものを中型土坑としてとりあげる（溝状の遺構は除く）。

2 大型土坑の特徴

まず、大型土坑の特徴について弥生時代の発掘資料が多く、遺跡立地等条件が均質な尾張地域における遺跡調査の事例をもとに考えたい（表1）。

(1) 大型土坑の形態分類とその傾向

大型土坑の規模は、大きいもので長径が10mを超し、短径においても3mを超すものがあるが、全体的には短径が1m前後であり、竪穴住居より小さい。遺構の深度は規模により様々であるが、30cm～50cm前後のものが多いように思われ、全体的には竪穴住居よりは深い遺構として検出される場合が多い。

形態に関しては、一色青海遺跡において平面の形態分類を、阿弥陀寺遺跡において埋土の分類がされている。この結果からは、土坑の使われ方には焼土と灰層・炭層が互層になるものや炭層が顕著にみられるもの、多量の土器が出土するもの、それらがあまりみられないもののが存在することから、機能の違いを推定できるが、土坑の平面や断面形態との対応関係はあまり認められていない。また焼土と灰層・炭層のラミナ堆積が顕著に認められる土坑は、土坑内における火の利用も考えられるが、土坑内の壁面が被熱しているものはない。阿弥陀寺遺跡の報告に指摘があるように、集落遺跡の土坑の埋土は違いがあり分類は可能ではあるが、ほとんどの土坑に炭化物は含まれ、多くは程度の差とも考えられる。

よって当地域にみられる弥生時代の大型土坑の大部分は、井戸や土坑墓を除くと形態と埋土などの特徴から廃棄を主体とした性格のものといえる。

(2) 遺跡内における占地

今回対象にしている大型土坑の遺跡内における分布について考える。

居住域に分布する土坑

遺跡の居住域に展開する土坑の存在について

は、土坑自体が竪穴住居や掘立柱建物と同様、遺跡における居住域を構成する要素と考えられて分析されることもあるので、ほとんどの遺跡の居住域内にみられる。しかし、遺構の検出状況において重複が認められる大型土坑と竪穴住居・掘立柱建物等の建物遺構は、検出状況からは同時存在があり得ないものと考えられ、建物遺構との占地の関係の変化がみられるものといえる。

実際に竪穴住居と掘立柱建物が検出され、大型土坑が10基以上見つかっている遺跡には、弥生時代前期・中期前葉・中期中葉前半・中期中葉後半・中期後葉・後期・古墳時代前期の朝日遺跡、弥生時代前期頃の三ツ井遺跡、山中遺跡、弥生時代中期前葉～中期中葉の志賀公園遺跡、猫島遺跡、弥生時代中期中葉～中期後葉の阿弥陀寺遺跡、大渕遺跡、一色青海遺跡、勝川遺跡苗田地区、弥生時代後期末～古墳時代前期前半の廻間遺跡がある。厳密な時期分類ができるていない朝日遺跡を除くと、ほぼ同一時期において多数の竪穴住居が検出されている猫島遺跡、阿弥陀寺遺跡、大渕遺跡、一色青海遺跡では竪穴住居と大型土坑の重複関係が比較的多くみられ、阿弥陀寺遺跡竪穴住居SB28、猫島遺跡00Aa区竪穴住居SB07等のように1棟の竪穴住居に数基重複・隣接して分布するものがある。一方当然であるが、建物遺構の検出数が少ない遺跡では異なる時期と考えられる建物遺構とは重複がみられるが、ほぼ同一時期においては建物遺構と重複する大型土坑は比較的少なく、大型土坑は建物遺構の周囲10m程の範囲に分布する。ただし、猫島遺跡、阿弥陀寺遺跡、大渕遺跡、一色青海遺跡においても、ほぼ同一時期に分類される建物遺構との関係では、重複する大型土坑より、建物遺構の周囲に分布し重複しない大型土坑の方が多い。

以上の分析からは、大型土坑は竪穴住居等の建物遺構と重複する立地条件において遺跡内に占地し、遺構の検出状況から考えれば、竪穴住居等建物遺構が検出されない（検出できない）部分（建物遺構の周囲の部分）からも検出される（検出できる）遺構の形態的条件をもつと同時に、相対的には竪穴住居等建物遺構の周囲（周囲10m程の範囲）に占地する条件を持

つものと考えられる。弥生時代中期後葉以後に多く検出される井戸は、朝日遺跡、一色青海遺跡、八王子遺跡、阿弥陀寺遺跡のように旧河道の際や谷状の窪地等、居住域の縁辺にみられ、建物遺構の周囲10mの範囲より遠くに分布する傾向がある。また弥生時代中期の猫島遺跡、大渕遺跡、一色青海遺跡、阿弥陀寺遺跡のように竪穴住居とほぼ同数程度（それ以上の場合もある）、検出される状況がある。

墓域に分布する土坑

ここでは方形周溝墓・墳丘墓が分布する範囲を墓域と考え、その範囲内に分布する大型土坑を取り上げる。ほぼ同一時期において方形周溝墓・墳丘墓内およびその周辺に分布する大型土坑が検出されているのは、弥生時代前期頃の三ツ井遺跡、山中遺跡、弥生時代中期前葉～中期中葉の猫島遺跡、志賀公園遺跡、弥生時代中期後葉の阿弥陀寺遺跡、一色青海遺跡、弥生時代後期の山中遺跡、古墳時代前期初頭の廻間遺跡、土田遺跡、西上免遺跡、弥生時代中期前葉～古墳時代前期の朝日遺跡等がある。また土坑墓と考えられるものもある。この中で、明確に大型土坑と方形周溝墓・墳丘墓と重複関係が認められるのは、三ツ井遺跡、猫島遺跡、志賀公園遺跡、弥生時代後期の山中遺跡、古墳時代前期初頭の廻間遺跡、土田遺跡、西上免遺跡があり、弥生時代中期の志賀公園遺跡の一部、弥生時代後期の山中遺跡、朝日遺跡の一部のように方形周溝墓・墳丘墓内にある埋葬主体部に関する土坑と土器棺に伴う土坑と考えられるものもあるが、ほぼ同一時期か近い時期において墓域と居住域が隣接する猫島遺跡、志賀公園遺跡、廻間遺跡等では、大型土坑が方形周溝墓・墳丘墓の周溝と重複している場合もあり、土坑の性格が必ずしも墓域に関連するものではない可能性がある。西上免遺跡の墳丘墓では大型土坑と墳丘墓に重複関係が認められるが、報告されているように墳丘墓に関連する祭祀等に伴う土坑の可能性がある。また阿弥陀寺遺跡、一色青海遺跡では大型土坑（ここでは井戸も含む）との重複ではなく、井戸等が埋没しないまま居住域から墓域に変遷する状況を示している可能性が高い。弥生時代前期頃の三ツ井遺跡では方形周溝墓と報告される方形状に廻る溝があり、竪穴住

居の周溝とも考えられるが、時期分類が不明であるので、居住域から墓域への変遷する状況を示しているものと考えておきたい。

以上の分析からは、方形周溝墓・墳丘墓の埋葬主体部に関する土坑、土器棺に伴う土坑を除くと墓域に伴う大型土坑は少ないといえる。

(3) 大型土坑の占地からみた遺跡の復元

ここでは発掘調査報告において土坑埋土の分類が行われ、居住域が広く調査されている阿弥陀寺遺跡における弥生時代中期中葉前半の遺構配置について分析したい。阿弥陀寺遺跡のI期とされる竪穴住居、掘立柱建物、大型・中型土坑、溝等の遺構を示したのが図1で、北東から南西にのびる尾根状微高地全体に遺構が形成されていることがわかる。この中で、竪穴住居が地形の傾斜に沿って北東から南西に分布する4群に分かれることがわかる。大型・中型土坑は一部竪穴住居と重複するものがあるが、大きくは竪穴住居の周辺に分布することが分かる。興味深いことに、土坑の埋土A類と分層された単一層からなり分層できない土坑は竪穴住居周辺に混在して分布するものが多く、埋土C類と分類された焼土と灰層・炭層が互層になるものや炭層が顕著にみられる大型・中型土坑は北1竪穴住居群と北2竪穴住居群の間の地点や北2竪穴住居群と南1竪穴住居群の間の地点、南1竪穴住居群と南2竪穴住居群の間になる地点を中心にやや集まって分布する傾向が見られ、埋土の状況が異なる二者がやや異なった地点に分布する。この状況から考えると、弥生時代中期中葉前半の阿弥陀寺遺跡の人々は、竪穴住居・掘立柱建物等建物遺構の周囲に大型土坑を掘り、さらに隣の竪穴住居群との境界部分（竪穴住居の周囲10m程のところ）に掘った大型土坑の中に焼土・灰層・炭層が埋まっていく（埋めた？）行為が行われた指向性が認められるのである。また大型土坑の中でも土器等の遺物が比較的顕著にみられるのは竪穴住居の近在のものであり、住居から離れるにつれて土器等の廃棄が少なくなる傾向がある様に思われる。

同様な状況は弥生時代中期後葉の一色青海遺跡95Ca区・95Cb区・96A区にもみられる。また、弥生時代中期中葉～後葉の西上免遺跡に

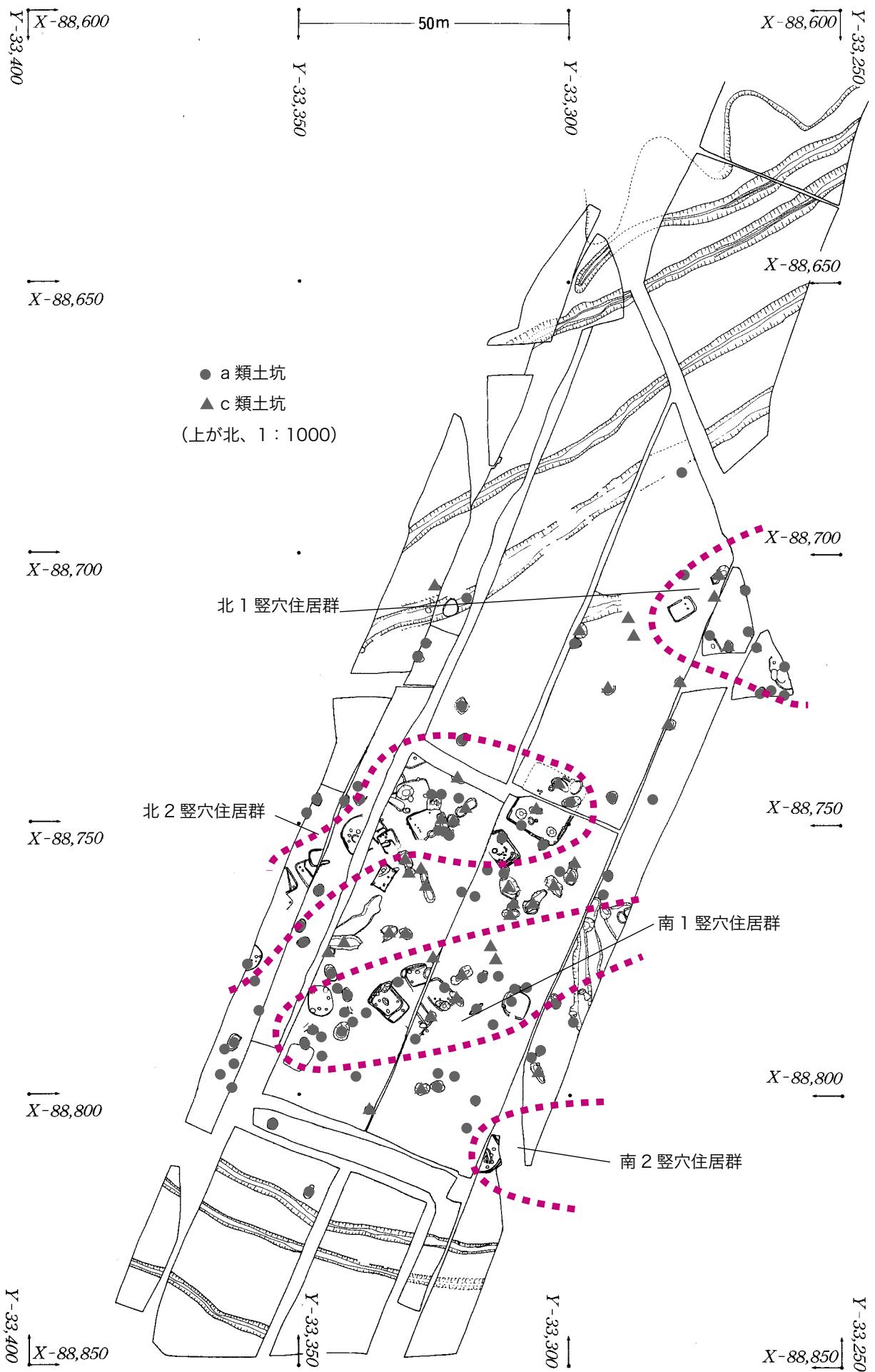


図1 阿弥陀寺遺跡の大型土坑（弥生時代中期中葉前半）

おいて指摘されているように、地点により分布する土坑の特徴が異なる状況も同様な傾向を示しているのかもしれない。

3 東海地域における大型土坑の展開

それでは先に触れたような状況が、異なる条件（立地、地域等）の遺跡においてもみられるであろうか。弥生時代における東海地域の大型土坑の有無を検討したのが表1である。

(1) 遺跡立地と時期的変遷

沖積微高地（氾濫原地帯、谷底平野、扇状地縁辺沖積微高地を含む）に立地する遺跡で大型土坑が10基以上検出されている遺跡は、愛知県では弥生時代前期の月繩手遺跡・山中遺跡・三ツ井遺跡、弥生時代前期・中期前葉・中期中葉前半・中期中葉後半・後葉・後期の朝日遺跡、弥生時代中期中葉後半・後期・古墳時代前期初頭の八王子遺跡、弥生時代中期前葉～中期中葉の志賀公園遺跡・猫島遺跡、弥生時代中期前葉～中期後葉の西上免遺跡、弥生時代中期中葉前半・中葉後半・中期後葉・後期の阿弥陀寺遺跡、弥生時代中期後葉の大渕遺跡・一色青海遺跡・勝川遺跡苗田地区、弥生時代後期～古墳時代前期初頭の山中遺跡、弥生時代後期末～古墳時代前期初頭の廻間遺跡がある。三重県では弥生時代前期の村竹コノ遺跡、弥生時代中期前葉の藏田遺跡、弥生時代中期後半の下川原遺跡、弥生時代後期の堀町遺跡がある。この他10基以上ある可能性が高い遺跡は弥生時代前期の愛知県松河戸遺跡、弥生時代中期の三重県納所遺跡がある。

洪積台地（丘陵、河岸段丘を含む）の遺跡では愛知県では弥生時代後期～古墳時代前期初頭の見晴台遺跡、三重県では、弥生時代中期前葉～中葉の東庄内B遺跡、弥生時代中期中葉前半の和遅野遺跡、弥生時代中期（中葉主体）の片野遺跡、弥生時代中期後葉の菟上遺跡・永井遺跡、弥生時代後期の堀町遺跡・小谷赤坂遺跡がある。この他10基以上ある可能性が高い遺跡は弥生時代中期中葉前半の三重県古里遺跡がある。

以上の弥生時代前期から古墳時代前期初頭の

遺跡において、大型土坑の多くつくられる遺跡は沖積微高地に立地する遺跡に多く、洪積台地に立地する遺跡は少ない傾向がある。大型土坑の時間的変遷では、弥生時代前期には既に多く掘られており、以後弥生時代中期後葉の遺跡で多数検出されている。弥生時代後期～古墳時代初頭においては、先に分析した墓域に関連する山中遺跡、西上免遺跡、居住域に関連する廻間遺跡、朝日遺跡、八王子遺跡等、尾張地域の沖積地において比較的多数の大型土坑がみられるが、他の地域においては堅穴住居等の遺構のあり方から考えると大型土坑が少ない傾向がある。ただし、三重県辻子遺跡のように沖積地の遺跡や洪積台地に立地する弥生時代後期の環濠集落である小谷赤坂遺跡では比較的多くの大型土坑がみられ、異なる状況がある点は留意される。

(2) 洪積台地上の弥生時代遺跡にみられる大型土坑

前節において、東海地域における弥生時代の大型土坑について、洪積台地上に立地する遺跡に少ない傾向を指摘した。この傾向は大きくは変わらないと思われるが、洪積台地上の遺跡においても沖積微高地上に立地する遺跡と同様に大型土坑が掘られるることは重要である。

大型土坑の遺跡内における占地を検討すると、堅穴住居や掘立柱建物等の建物遺構と重複関係があるものは、弥生時代中期後葉の愛知県橋良遺跡において2基、弥生時代後期～古墳時代前期初頭の見晴台遺跡で数基、南山畠遺跡で1基、三重県では、弥生時代中期前葉～中葉の東庄内B遺跡で2基（1棟の堅穴住居に）、弥生時代中期後葉の菟上遺跡において5基（1m内外に隣接するものが8基）、弥生時代後期小谷赤坂遺跡において2基、古墳時代前期後半の三重県新畠遺跡において3基（堅穴住居2棟に）あるだけで、大型土坑は建物遺構の周囲に分布し、重複する例がある遺跡は比較的多数の堅穴住居が検出されている遺跡に限られる。また墓域との関連でも弥生時代中期（中葉主体）の片野遺跡において、時期は不明であるが方形周溝墓と重複する関係にある大型土坑の例があ

るのみで、先に触れた尾張地域の大型土坑の占地の傾向がより明瞭に確認できる。

形態的特徴を細かく分析できていないが、楕円形から隅丸長方形状の平面形態で断面丸底状の様々な形態をしており、規模も尾張地域の状況と類似するように思われる。

(3) 縄文時代晚期の遺跡にある大型土坑

弥生時代前期の東海地域において、すでに今回分析したような大型土坑が存在することは明らかで、縄文時代晚期にさかのぼって存在する可能性も高い。縄文時代後期～晚期の岐阜県西田遺跡や愛知県三斗目遺跡、縄文時代晚期の三重県蛇龜橋遺跡では、今回の大型土坑に分類できる土坑が竪穴住居周辺に分布する傾向がみられる。一方、愛知県牛牧遺跡では竪穴住居の周辺に土坑墓とされる大型土坑が多数みられ、愛知県麻生田大橋遺跡では土器棺墓の分布と径1.0m前後の平面円形状、断面やや袋状の形態が復元できる土坑が並行する時期に存在する状況が見られる。また三重県森添遺跡においては大型土坑が住居跡、配石遺構、焼土面などとともに多数あり、時期的変遷の多様さと同時に重複関係も多数みられる。

東海地域における縄文時代晚期の遺跡では、大型土坑が平面楕円形状断面丸底状のものと平面円形状断面袋状のものに大きく分類でき、前者は土坑墓と分類されるものが多く、居住域の内部から近在に分布する可能性がある。

4まとめ

以上の分析において、東海地域弥生時代の遺跡における大型土坑の主に占地の状況について分析したが、遺跡の居住域内部において竪穴住居等建物遺構と分布するものの、竪穴住居との重複は少ないと明確であることは明らかで、竪穴住居を始めとする建物遺構が存在する地点が人間活動の拠点とするならば、大型土坑が分布する地点はその縁辺といえる。ここではさらに主に居住域に分布する大型土坑の特徴について、大型土坑の占地から朝日遺跡と菟上遺跡を分析し、その補足をしてまとめたい。

(1) 大型土坑のない地点

朝日遺跡の南居住域において基盤砂層上に弥生時代の遺物包含層を堆積しない黒色土の堆積が確認される地点が数カ所ある。これらの部分は弥生時代の朝日遺跡において遺構の掘削が地中深くに及ばなかった地点であり、掘削されなかつた可能性が高い場所である。既に指摘されているように遺跡南居住域を縦断する大溝等の土手状の遺構（堆積）が存在した可能性のために遺構が形成されなかつた可能性もあるが、その他にもこのような地点が散在することから考えると、今回詳細な分析はできないが弥生時代の一定期間窪地であった可能性が高い地点と考えられる。したがって朝日遺跡の南居住域内の場合、竪穴住居を始めとする土坑（大型土坑から小柱穴まで）・溝などがどのような状態で変遷していったか細かな変遷をたどることは困難であるが、大型土坑が環濠に囲まれた居住域の内部においても、窪地状になる地点には分布せず、窪地の周辺に分布する状況がみられる。この状況は性質の異なる可能性があるが、弥生時代遺跡の集落外側の窪地・谷・後背湿地において大型土坑が分布しない状況と類似する。

また集落域が比較的広範囲に調査された弥生時代中期後葉の菟上遺跡においては、居住域の状態が復元されており、大型掘立柱建物が検出された地点においてはあまり大型土坑が分布せず、反対に幅20m程の谷であるST802の延長上にあたる窪地状になる地点にまとまった数の大型土坑が検出されており、周囲の丘陵微高地状に立地する竪穴住居群から周囲10m程の中に入る。一定の継続期間をもつ遺跡であり、細かな遺構変遷は不明であるが、報告書の分析においては、建物の規模・形態、出土遺物の分布も鑑み、大型竪穴住居と大型掘立柱建物を中心とする区域を「集落中枢部」と位置付け、谷ST802を囲む丘陵微高地の竪穴住居群を含む区域を「一般員成居住区・工房区」として役割分担が存在したことを指摘されている。先に述べた竪穴住居が形成される空間に大型土坑が少ない傾向のより明確に区分された状態を菟上遺跡の大型竪穴住居と大型掘立柱建物が存在する周囲の地点において形成されていたものと考え



られる。

(2) 集落研究のための評価

以上の分析から導き出された大型土坑の占地のあり方を模式的にあらわしたのが図2である。居住域内部において竪穴住居の周囲10m程の範囲を中心に掘られ、隣接する竪穴住居群との中程に火の痕跡のある堆積物が埋まる行為が行われた。そして住居の周囲20mの範囲でほとんどが掘られ、周縁やその外縁の大型土坑として掘られるものとして井戸や墓域の周縁にある土坑墓がある。このような状況が認められるならば、尾張地域の沖積微高地にみられる大型土坑が竪穴住居等と重複する地点が多い遺跡

は、居住域における地点（役割の違う場所）の変換が行われた痕跡を残すものと考えられ、細かな遺跡変遷が発明できるならばより多様な遺構変遷が存在した可能性が高いものと考えられる。またこのような状況が沖積微高地に立地する尾張地域の弥生時代における集落構造の特徴ともいえないであろうか。一方で、洪積台地に立地する弥生時代の集落において、大型土坑が掘られない理由（単にゴミとなった遺物を集落外に持ち出すのか等）についても考えていく必要があるよう思われる。今後の課題としたい。

本論を作成するにあたり、木野本和之氏・川北秀実・水野多栄氏のご教授、ご協力を得た。記して感謝の意としたい。

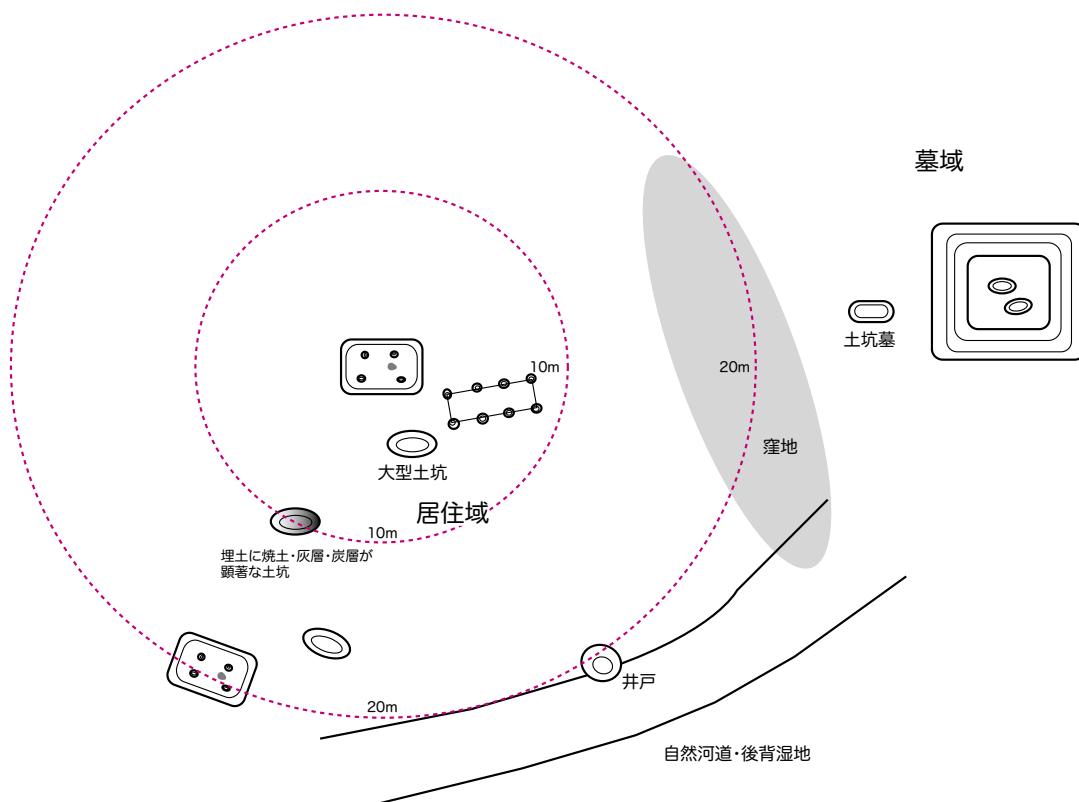


図2 弥生時代における大型土坑の占地

参考文献

本論では、報告書による遺跡事例の分析についての研究を取り上げていない。今後他地域における各遺跡の分析事例を検討していく必要があるものと思われる。尚、今回取り上げた報告書の引用文献は各遺跡の遺構データとともに表1において記述した。

石野博信 1967 「貯蔵施設の貯蔵施設」『関西大学考古学研究年報I』。

武末純一 1991 「倉庫の管理主体-北九州の弥生拠点集落例から-」『古文化論叢』児島隆人先生喜寿記念事業会。

川上洋一 1995 「弥生時代の墓地における土器出土状況の分析-北部九州と吉備を中心にして-」『考古学研究』第42巻第2号、考古学研究会。

表1 東海地域における弥生時代の大型土坑

県名	市町村名	遺跡名	立地	遺跡面積	時期	監修生居等	大型土坑	中型土坑	備考
愛知県	一宮市	三ツ井遺跡	井戸原高地	12,000	縄文時代後期	0坪(報告で1)	1	4	大型土坑SK1・SK2は6家住に、中型土坑はSK1・SK2の周囲。
愛知県	豊田市	三斗目遺跡	共台地	16,1300	縄文時代後期～晩期	豊六住1棟、戸5基、集構・輪石約30 豊26基	豊六住1棟、戸5基、集構・輪石約30 豊26基	豊六住1棟、戸5基、集構・輪石約30 豊26基	田中伸明・鬼頭綱「三ツ井遺跡」、『愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第87集』財团法人・愛知県埋蔵文化財センター 余命昭彦編「993「三斗目」・二本松遺跡」、『愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第47集』財团法人・愛知県埋蔵文化財センター
愛知県	名古屋市	牛牧遺跡	共台地	1,250	縄文時代後期～晩期	豊六住1棟、土器留置43基 豊26基	35基	35基	豊の初期階が最も早く、大型土坑の大部が土壠墓の引込式である。 豊の中期階が最も遅く、大型土坑は住居に重複する。その後は住居の周辺 に分布する。
岐阜県	丹生川町	西田遺跡	共台地	16,3800	縄文時代後期	豊六住20棟(平地式含む)	558	多數	大型土坑の多くは住居に重複する。その後は住居の周辺 に分布する。
愛知県	名古屋市	見晴台遺跡	低地地区	10,2000	縄文時代後期	豊六住15棟	21	5	大型土坑でSK2は凹面、SK2とOSは巣石多數出土。土 坑は住居と隣接する位置に多いが、大型土坑はは遠隔の附 近西側に有る。
三重県	度会町	森添遺跡	河岸段丘中位台地	8,84	縄文時代後期半	豊六住2棟	1	1	豊摩原「93「度会人跡遺跡」、『昭和56年度開拓事業で発掘調査報告書』、三重県教育委員会
三重県	鴨野町	佐鳴原遺跡A地区	低丘陵間谷内底高	8,00	縄文時代後期半	豊六住2棟	1	1	田中洋一「一志野鴨野町佐鳴原遺跡」、『昭和56年度開拓事業で発掘調査報告書』、三重県教育委員会
三重県	鴨野町	佐鳴原遺跡B地区	低丘陵間谷内底高	1,2100	縄文時代後期半～晩期	0坪	1	1	田中洋一「一志野鴨野町佐鳴原遺跡」、『昭和56年度開拓事業で発掘調査報告書』、三重県教育委員会
愛知県	一宮市	三ツ井遺跡	井戸原高地	16,9600	縄文時代後期半～晩期	豊六住1棟、土器留置234基 豊26基以上	322基以上	322基以上	大型土坑は断面後壁のものと2～3段あり。中型土坑は石器 陶器などは後壁のものと2～3段あり。
愛知県	豊川市	原生田水敷遺跡	井戸原高地	185	弥生時代前期	0坪	10	11	圓錐形土坑は断面後壁のものと2～3段あり。
愛知県	名古屋市	月觸手跡	井戸原高地	1,220	弥生時代前期	0坪	125	10	圓錐形土坑は断面後壁のものと2～3段あり。
愛知県	名古屋市	月觸手跡II	井戸原高地	12,3740	弥生時代前半	豊六住3棟、区画溝、方形切妻 状の跡あり	12	54	圓錐形土坑は断面後壁のものと2～3段あり。
愛知県	一宮市	八王子跡	井戸原高地	1,274	弥生時代前半	豊六住1棟	14坪上	0	井戸原「93「八王子遺跡」、『愛知県埋蔵文化財センター調査報告書』、三重県教育委員会
愛知県	海部市	野口北山遺跡	井戸原高地	1,274	弥生時代前半	豊六住1棟	0	1	井戸原「93「野口北山遺跡」、『愛知県埋蔵文化財センター調査報告書』、三重県教育委員会
三重県	松阪市	鏡空塚	弓削段丘	16,1000	弥生時代前半	豊六住1棟	1	1	中型土坑は住居と重複しない。
三重県	松阪市	上寺塚	弓削段丘	15,5500	弥生時代前半	豊六住1棟	6	0	中型土坑はSH526内に間に隙接する。
三重県	松阪市	小谷赤井遺跡(第3回)	丘陵上	12,560	弥生時代前半	平地式住居2棟?	3	2	大型土坑はSH526内に間に隙接する。
三重県	松阪市	小谷赤井遺跡(第6回)	丘陵上	3,100	弥生時代前半	0坪	2	中型土坑はSH526内に間に隙接する。	
三重県	四日市市	大谷遺跡	共台地	16,2700	弥生時代前半	豊六住2棟、組立住跡か、ビック ト跡あり	3	1	土坑と住居は重複しない。他の環濠上には出で張る。
三重県	三重町	中之庄跡	三州	13,000	弥生時代前半	方形切妻1棟(SK13)	28坪上	1	玉造道明「966「大谷遺跡発掘調査報告書」-地区1-」、『四日市市埋蔵文化財調査報告書』、四日市市教育委員会、伊藤洋介「977「大谷跡発
三重県	四日市市	永井・豊原	台地上	16,2800	弥生時代前半	0坪	14坪上	0	松原航「2000「新町・地区2-」、『四日市市埋蔵文化財調査報告書』、四日市市教育委員会
愛知県	一宮市	三ツ井跡	井戸原高地	11,2100	弥生時代前半～晩期	豊六住1棟	0	1	中型土坑はSH526内に間に隙接する。
愛知県	一宮市	山中遺跡	井戸原高地	1,800 (4次) 1,5次#セ7	弥生時代前半	豊六住5個以上、方形切妻3～5基以上 基址、水田遺跡	53基以上	53基以上	中型土坑はSH526の北側。やや深い。 玉造道明「973「永井・豊原遺跡調査報告書」」、『四日市市埋蔵文化財調査報告書』、四日市市教育委員会
三重県	三重町	中之庄跡	三州	14,000	弥生時代前半	方形切妻1棟	1～5基	0	大型土坑はSH526の北側。
三重県	四日市市	永井・豊原	台地上	16,2100	弥生時代前半～	豊六住5個以上	4以上	4以上	中型土坑はSH526の北側。
愛知県	一宮市	三ツ井跡	井戸原高地	1,800 (4次) 1,5次#セ7	弥生時代前半	豊六住5個以上、方形切妻3～5基以上 基址、水田遺跡	53基以上	53基以上	中型土坑はSH526の北側。
愛知県	一宮市	山中遺跡	井戸原高地	1,800 (4次) 1,5次#セ7	弥生時代前半	0坪	2	1	中型土坑はSH526の北側。
三重県	玉城町	仲原内跡	井戸原の裾部	14,800 (4次) 1,5次#セ7	弥生時代前半	豊六住19棟、方形切妻9基(住 居に繋はる跡から分離する)	110	15	大型土坑は、方形切妻に接して3基、住居に隣接して3基、住居に重複する可能性がある。 中型土坑はSK53の跡。中型土坑のSK53の跡の上に、横方に石器が立っている。 石器と土器が埋葬されている。中型土坑、小堀土坑(Pt)
三重県	玉城町	金剛坂遺跡	丘側丘陵2	1,6900	弥生時代前半	0坪	0	0	中型土坑はSK53の跡。中型土坑のSK53の跡の上に、横方に石器が立っている。
三重県	玉城町	上の山跡	第3次	16,2400	弥生時代前半	豊六住1棟	23	1	北側に施設があるく外郭、豊六住と重複もあり。北側に施設があるく外郭、豊六住と重複もあり。北側に施設があるく外郭、豊六住と重複もあり。北側に施設があるく外郭、豊六住と重複あり。
愛知県	善光寺町	阿弥陀院	中戸原高地	16,15000	弥生時代中期	豊六住36棟、獨立性建物1棟、溝 7条	866	7	三重県教育委員会「979「度会玉城山の仲原内遺跡」、『愛知県埋蔵文化財センター調査報告書』、三重県教育委員会
愛知県	宮市	八王子跡	中戸原高地	2,3740	弥生時代中期	0坪	3	不明	三重県教育委員会「980「阿弥陀院遺跡」、『愛知県埋蔵文化財センター調査報告書』、三重県教育委員会
愛知県	刈羽町	朝日遺跡	中戸原高地	16,15000	弥生時代中期	豊六住44個(南側)・5棟(東側)・ 15棟(東側)・15棟(北側)・船社建 2棟(東側)	16,960	10	三重県教育委員会「981「朝日遺跡」、『愛知県埋蔵文化財センター調査報告書』、三重県教育委員会
三重県	善光寺町	村竹コノ遺跡	丘側丘陵	1,6900	弥生時代前半	0坪	0	0	三重県教育委員会「982「村竹コノ遺跡」、『愛知県埋蔵文化財センター調査報告書』、三重県教育委員会
三重県	玉城町	上の山跡	丘側丘陵	16,15000	弥生時代中期	豊六住36棟、獨立性建物1棟、溝 7条	866	7	三重県教育委員会「983「上の山遺跡」、『愛知県埋蔵文化財センター調査報告書』、三重県教育委員会
愛知県	善光寺町	善光寺	中戸原高地	16,15000	弥生時代中期	豊六住36棟、獨立性建物1棟、溝 7条	866	7	三重県教育委員会「984「善光寺遺跡」、『愛知県埋蔵文化財センター調査報告書』、三重県教育委員会
愛知県	宮市	八王子跡	中戸原高地	16,15000	弥生時代中期	豊六住36棟、獨立性建物1棟、溝 7条	866	7	三重県教育委員会「985「八王子遺跡」、『愛知県埋蔵文化財センター調査報告書』、三重県教育委員会
三重県	善光寺町	金剛坂	丘側丘陵2	1,6900	弥生時代前半	0坪	0	0	三重県教育委員会「986「金剛坂遺跡」、『愛知県埋蔵文化財センター調査報告書』、三重県教育委員会
三重県	玉城町	上の山跡	丘側丘陵	16,15000	弥生時代前半	豊六住1棟	0	0	三重県教育委員会「987「上の山遺跡」、『愛知県埋蔵文化財センター調査報告書』、三重県教育委員会
愛知県	善光寺町	善光寺	中戸原高地	16,15000	弥生時代中期	豊六住36棟、獨立性建物1棟、溝 7条	866	7	三重県教育委員会「988「善光寺遺跡」、『愛知県埋蔵文化財センター調査報告書』、三重県教育委員会
愛知県	宮市	八王子跡	中戸原高地	16,15000	弥生時代中期	豊六住36棟、獨立性建物1棟、溝 7条	866	7	三重県教育委員会「989「八王子遺跡」、『愛知県埋蔵文化財センター調査報告書』、三重県教育委員会
三重県	善光寺町	金剛坂	丘側丘陵2	1,6900	弥生時代前半	0坪	0	0	三重県教育委員会「990「金剛坂遺跡」、『愛知県埋蔵文化財センター調査報告書』、三重県教育委員会
三重県	玉城町	上の山跡	丘側丘陵	16,15000	弥生時代前半	豊六住1棟	0	0	三重県教育委員会「991「上の山遺跡」、『愛知県埋蔵文化財センター調査報告書』、三重県教育委員会
愛知県	善光寺町	善光寺	中戸原高地	16,15000	弥生時代中期	豊六住36棟、獨立性建物1棟、溝 7条	866	7	三重県教育委員会「992「善光寺遺跡」、『愛知県埋蔵文化財センター調査報告書』、三重県教育委員会
愛知県	宮市	八王子跡	中戸原高地	16,15000	弥生時代中期	豊六住36棟、獨立性建物1棟、溝 7条	866	7	三重県教育委員会「993「八王子遺跡」、『愛知県埋蔵文化財センター調査報告書』、三重県教育委員会
三重県	善光寺町	金剛坂	丘側丘陵2	1,6900	弥生時代前半	0坪	0	0	三重県教育委員会「994「金剛坂遺跡」、『愛知県埋蔵文化財センター調査報告書』、三重県教育委員会
三重県	玉城町	上の山跡	丘側丘陵	16,15000	弥生時代前半	豊六住1棟	0	0	三重県教育委員会「995「上の山遺跡」、『愛知県埋蔵文化財センター調査報告書』、三重県教育委員会
愛知県	善光寺町	善光寺	中戸原高地	16,15000	弥生時代中期	豊六住36棟、獨立性建物1棟、溝 7条	866	7	三重県教育委員会「996「善光寺遺跡」、『愛知県埋蔵文化財センター調査報告書』、三重県教育委員会
愛知県	宮市	八王子跡	中戸原高地	16,15000	弥生時代中期	豊六住36棟、獨立性建物1棟、溝 7条	866	7	三重県教育委員会「997「八王子遺跡」、『愛知県埋蔵文化財センター調査報告書』、三重県教育委員会
三重県	善光寺町	金剛坂	丘側丘陵2	1,6900	弥生時代前半	0坪	0	0	三重県教育委員会「998「金剛坂遺跡」、『愛知県埋蔵文化財センター調査報告書』、三重県教育委員会
三重県	玉城町	上の山跡	丘側丘陵	16,15000	弥生時代前半	豊六住1棟	0	0	三重県教育委員会「999「上の山遺跡」、『愛知県埋蔵文化財センター調査報告書』、三重県教育委員会
愛知県	善光寺町	善光寺	中戸原高地	16,15000	弥生時代中期	豊六住36棟、獨立性建物1棟、溝 7条	866	7	三重県教育委員会「999「善光寺遺跡」、『愛知県埋蔵文化財センター調査報告書』、三重県教育委員会
愛知県	宮市	八王子跡	中戸原高地	16,15000	弥生時代中期	豊六住36棟、獨立性建物1棟、溝 7条	866	7	三重県教育委員会「999「八王子遺跡」、『愛知県埋蔵文化財センター調査報告書』、三重県教育委員会
三重県	善光寺町	金剛坂	丘側丘陵2	1,6900	弥生時代前半	0坪	0	0	三重県教育委員会「999「金剛坂遺跡」、『愛知県埋蔵文化財センター調査報告書』、三重県教育委員会
三重県	玉城町	上の山跡	丘側丘陵	16,15000	弥生時代前半	豊六住1棟	0	0	三重県教育委員会「999「上の山遺跡」、『愛知県埋蔵文化財センター調査報告書』、三重県教育委員会
愛知県	善光寺町	善光寺	中戸原高地	16,15000	弥生時代中期	豊六住36棟、獨立性建物1棟、溝 7条	866	7	三重県教育委員会「999「善光寺遺跡」、『愛知県埋蔵文化財センター調査報告書』、三重県教育委員会
愛知県	宮市	八王子跡	中戸原高地	16,15000	弥生時代中期	豊六住36棟、獨立性建物1棟、溝 7条	866	7	三重県教育委員会「999「八王子遺跡」、『愛知県埋蔵文化財センター調査報告書』、三重県教育委員会
三重県	善光寺町	金剛坂	丘側丘陵2	1,6900	弥生時代前半	0坪	0	0	三重県教育委員会「999「金剛坂遺跡」、『愛知県埋蔵文化財センター調査報告書』、三重県教育委員会
三重県	玉城町	上の山跡	丘側丘陵	16,15000	弥生時代前半	豊六住1棟	0	0	三重県教育委員会「999「上の山遺跡」、『愛知県埋蔵文化財センター調査報告書』、三重県教育委員会
愛知県	善光寺町	善光寺	中戸原高地	16,15000	弥生時代中期	豊六住36棟、獨立性建物1棟、溝 7条	866	7	三重県教育委員会「999「善光寺遺跡」、『愛知県埋蔵文化財センター調査報告書』、三重県教育委員会
愛知県	宮市	八王子跡	中戸原高地	16,15000	弥生時代中期	豊六住36棟、獨立性建物1棟、溝 7条	866	7	三重県教育委員会「999「八王子遺跡」、『愛知県埋蔵文化財センター調査報告書』、三重県教育委員会
三重県	善光寺町	金剛坂	丘側丘陵2	1,6900	弥生時代前半	0坪	0	0	三重県教育委員会「999「金剛坂遺跡」、『愛知県埋蔵文化財センター調査報告書』、三重県教育委員会
三重県	玉城町	上の山跡	丘側丘陵	16,15000	弥生時代前半	豊六住1棟	0	0	三重県教育委員会「999「上の山遺跡」、『愛知県埋蔵文化財センター調査報告書』、三重県教育委員会
愛知県	善光寺町	善光寺	中戸原高地	16,15000	弥生時代中期	豊六住36棟、獨立性建物1棟、溝 7条	866	7	三重県教育委員会「999「善光寺遺跡」、『愛知県埋蔵文化財センター調査報告書』、三重県教育委員会
愛知県	宮市	八王子跡	中戸原高地	16,15000	弥生時代中期	豊六住36棟、獨立性建物1棟、溝 7条	866	7	三重県教育委員会「999「八王子遺跡」、『愛知県埋蔵文化財センター調査報告書』、三重県教育委員会
三重県	善光寺町	金剛坂	丘側丘陵2	1,6900	弥生時代前半	0坪	0	0	三重県教育委員会「999「金剛坂遺跡」、『愛知県埋蔵文化財センター調査報告書』、三重県教育委員会
三重県	玉城町	上の山跡	丘側丘陵	16,15000	弥生時代前半	豊六住1棟	0	0	三重県教育委員会「999「上の山遺跡」、『愛知県埋蔵文化財センター調査報告書』、三重県教育委員会
愛知県	善光寺町	善光寺	中戸原高地	16,15000	弥生時代中期	豊六住36棟、獨立性建物1棟、溝 7条	866	7	三重県教育委員会「999「善光寺遺跡」、『愛知県埋蔵文化財センター調査報告書』、三重県教育委員会
愛知県	宮市	八王子跡	中戸原高地	16,15000	弥生時代中期	豊六住36棟、獨立性建物1棟、溝 7条	866	7	三重県教育委員会「999「八王子遺跡」、『愛知県埋蔵文化財センター調査報告書』、三重県教育委員会
三重県	善光寺町	金剛坂	丘側丘陵2	1,6900	弥生時代前半	0坪	0	0	三重県教育委員会「999「金剛坂遺跡」、『愛知県埋蔵文化財センター調査報告書』、三重県教育委員会
三重県	玉城町	上の山跡	丘側丘陵	16,15000	弥生時代前半	豊六住1棟	0	0	三重県教育委員会「999「上の山遺跡」、『愛知県埋蔵文化財センター調査報告書』、三重県教育委員会
愛知県	善光寺町	善光寺	中戸原高地	16,15000	弥生時代中期	豊六住36棟、獨立性建物1棟、溝 7条	866	7	三重県教育委員会「999「善光寺遺跡」、『愛知県埋蔵文化財センター調査報告書』、三重県教育委員会
愛知県	宮市	八王子跡	中戸原高地	16,15000	弥生時代中期	豊六住36棟、獨立性建物1棟、溝 7条	866	7	三重県教育委員会「999「八王子遺跡」、『愛知県埋蔵文化財センター調査報告書』、三重県教育委員会
三重県	善光寺町	金剛坂	丘側丘陵2	1,6900	弥生時代前半	0坪	0	0	三重県教育委員会「999「金剛坂遺跡」、『愛知県埋蔵文化財センター調査報告書』、三重県教育委員会
三重県	玉城町	上の山跡	丘側丘陵	16,15000	弥生時代前半	豊六住1棟	0	0	三重県教育委員会「999「上の山遺跡」、『愛知県埋蔵文化財センター調査報告書』、三重県教育委員会
愛知県	善光寺町	善光寺	中戸原高地	16,15000	弥生時代中期	豊六住36棟、獨立性建物1棟、溝 7条	866	7	三重県教育委員会「999「善光寺遺跡」、『愛知県埋蔵文化財センター調査報告書』、三重県教育委員会
愛知県	宮市	八王子跡	中戸原高地	16,15000	弥生時代中期	豊六住36棟、獨立性建物1棟、溝 7条	866	7	三重県教育委員会「999「八王子遺跡」、『愛知県埋蔵文化財センター調査報告書』、三重県教育委員会

県名	市町村名・遺跡名	立地	調査面積	時期	大型土坑	縦穴住居等
三重県 安濃町	平田遺跡・西支辨	丘陵上	(1)	弥生時代中期前半	縦穴住居3棟	大型土坑が堅穴住居と重複する。
三重県 津市	藤田遺跡	冲積地	15710	弥生時代中期の葉	縦穴住居1棟、柱列4列、方形2基	大型土坑が堅穴住居と重複するものはない。堅穴住居は土壘の可能性があり、堅立性建物と重複するもの2基。他の建物面積5~20m ² の範囲にある。
愛知県 名古屋市	名古屋城三の丸遺跡	9000	弥生時代中期前半	縦穴住居7棟	0	不明
三重県 伊勢市	中ノ島遺跡	河原段丘底谷面	187000	弥生時代中期前半	縦穴住居2棟	大型土坑が堅穴住居と重複する。
愛知県 名古屋市	志賀買公園遺跡	鶴林地	1032000	弥生時代中期前半~中期中葉	縦穴住居30棟、堅立性建物1基、方形15基	大型土坑は十数箇室と報告されるものの有無は、堅穴住居ではなく溝渠では方形溝渠に記載されている。方形溝渠との後継では方形溝渠に記載している。
愛知県 名古屋市	名古屋城北の丸遺跡	1200	弥生時代中期前半	縦穴住居2棟、掘立性建物3棟、方形2基	0	大型土坑が堅穴住居と重複する。
愛知県 豊川市	猪鳥遺跡	冲積地	14200 (97)	弥生時代中期前半~中期中葉	縦穴住居7棟	大型土坑が堅穴住居と重複する。
愛知県 名古屋市	志賀買公園遺跡	鶴林地	14200 (98)	弥生時代中期前半~中期中葉	縦穴住居4棟、方形2基	大型土坑は十数箇室と報告されるものの有無は、堅穴住居ではなく溝渠では方形溝渠に記載している。
愛知県 一宮市	八王子遺跡	冲積地	15900	弥生時代中期前半~中期中葉	縦穴住居1基、堅立性建物4基、方形2基	大型土坑は十数箇室と報告されるものの有無は、堅穴住居ではなく溝渠では方形溝渠に記載している。
三重県 鈴鹿市	東庄内遺跡	洪積台地	6125	弥生時代中期前半~中期中葉	縦穴住居2棟、堅立性建物1基、方形2基	大型土坑は十数箇室と報告されるものの有無は、堅穴住居ではなく溝渠では方形溝渠に記載している。
愛知県 甚目寺町	阿须陀寺遺跡	冲積地	151000	弥生時代中期前半	縦穴住居3棟、溝1条	大型土坑が堅穴住居と重複する。
愛知県 名古屋市	八王子遺跡	冲積地	1423740	弥生時代中期前半~中期中葉	縦穴住居9棟	大型土坑は十数箇室と報告されるものの有無は、堅穴住居ではなく溝渠では方形溝渠に記載している。
愛知県 名古屋市	野口北山遺跡	冲積地	1274	弥生時代中期前半	0棟、方形溝渠7基	大型土坑は十数箇室と報告されるものの有無は、堅穴住居ではなく溝渠では方形溝渠に記載している。
三重県 日山町	利澤野遺跡	河原段丘	883	弥生時代中期前半	縦穴住居18個(南北)、106(東西)	大型土坑は十数箇室と報告されるものの有無は、堅穴住居ではなく溝渠では方形溝渠に記載している。
三重県 鈴鹿町	古里遺跡C地区	洪積台地	153000	弥生時代中期前半	縦穴住居2棟(南北)	大型土坑は十数箇室と報告されるものの有無は、堅穴住居ではなく溝渠では方形溝渠に記載している。
愛知県 清洲町	朝日遺跡	冲積地	1950 (E-H)	弥生時代中期前半	0棟	大型土坑は十数箇室と報告されるものの有無は、堅穴住居ではなく溝渠では方形溝渠に記載している。
岐阜県 美濃加茂市	牧野小山遺跡	冲積地	1500	弥生時代中期前半	縦穴住居3棟	大型土坑は十数箇室と報告されるものの有無は、堅穴住居ではなく溝渠では方形溝渠に記載している。
三重県 松阪市	上寺遺跡	河原段丘	195500	弥生時代中期前半	縦穴住居14個(南北)、1(東西)	大型土坑は十数箇室と報告されるものの有無は、堅穴住居ではなく溝渠では方形溝渠に記載している。
三重県 海津町	金剛坂遺跡	河原段丘	19600	弥生時代中期前半	0(東西)	大型土坑は十数箇室と報告されるものの有無は、堅穴住居ではなく溝渠では方形溝渠に記載している。
三重県 鈴鹿市	東庄内遺跡	洪積台地	15280	弥生時代中期前半	縦穴住居5棟(南北)	大型土坑は十数箇室と報告されるものの有無は、堅穴住居ではなく溝渠では方形溝渠に記載している。
愛知県 清洲町	恒・柏原遺跡七地区区分	冲積地	2200	弥生時代中期前半	縦穴住居11棟	大型土坑は十数箇室と報告されるものの有無は、堅穴住居ではなく溝渠では方形溝渠に記載している。
岐阜県 美濃加茂市	朝日遺跡	冲積地	150000	弥生時代中期前半	縦穴住居20個(南北)、6(東西)	大型土坑は十数箇室と報告されるものの有無は、堅穴住居ではなく溝渠では方形溝渠に記載している。
三重県 玉城町	上地山遺跡	上地丘丘面高高地	1220	弥生時代中期前半~中期後半	縦穴住居4棟(南北)	大型土坑は十数箇室と報告されるものの有無は、堅穴住居ではなく溝渠では方形溝渠に記載している。
愛知県 豊田市	川原遺跡	冲積地	12500	弥生時代中期前半~中期後半	0(東西)	大型土坑は十数箇室と報告されるものの有無は、堅穴住居ではなく溝渠では方形溝渠に記載している。
愛知県 名古屋市	志賀買公園遺跡	冲積地	142000 (98)	弥生時代中期前半~中期後半	0(東西)	大型土坑は十数箇室と報告されるものの有無は、堅穴住居ではなく溝渠では方形溝渠に記載している。
愛知県 尾張市	西上空遺跡	河原段丘	10568	弥生時代中期前半	0(東西)	大型土坑は十数箇室と報告されるものの有無は、堅穴住居ではなく溝渠では方形溝渠に記載している。
三重県 鈴鹿市	足利段丘	丘陵	120000	弥生時代中期前半~中期後半	0(東西)	大型土坑は十数箇室と報告されるものの有無は、堅穴住居ではなく溝渠では方形溝渠に記載している。
三重県 名張市	御所原山遺跡	河原段丘	101000	弥生時代中期前半~中期後半	0(東西)	大型土坑は十数箇室と報告されるものの有無は、堅穴住居ではなく溝渠では方形溝渠に記載している。
三重県 海津市	龜井遺跡	河原段丘	10515	弥生時代中期前半	0(東西)	大型土坑は十数箇室と報告されるものの有無は、堅穴住居ではなく溝渠では方形溝渠に記載している。
愛知県 甚目寺町	大瀬戸遺跡	冲積地	101000	弥生時代中期前半~中期後半	0(東西)	大型土坑は十数箇室と報告されるものの有無は、堅穴住居ではなく溝渠では方形溝渠に記載している。
愛知県 春日井市	勝川遺跡	上原砂地区	100000	弥生時代中期前半~中期後半	0(東西)	大型土坑は十数箇室と報告されるものの有無は、堅穴住居ではなく溝渠では方形溝渠に記載している。
愛知県 春日井市	別川遺跡	南東山地区	103基	弥生時代中期前半	0(東西)	大型土坑は十数箇室と報告されるものの有無は、堅穴住居ではなく溝渠では方形溝渠に記載している。

